

図 3 直近 2 ヶ月間の SSE・低周波微動モニタリング (2020 年 12 月 1 日~2021 年 1 月 31 日)。 (a) 低周波微動と通常の地震の震央分布図 (●:低周波微動、○:通常の地震)。それぞれの震源深さが、0~15 km 及び 0~60 km の範囲に決まったイベントのみを示す。▼ ▼ ▼ ▼は、それぞれ C0002・C0010・C0006・DONET 観測点を示す。破線はトラフ軸を示す。(b) 長期孔内観測点における間隙水圧変化 (—: C0002、—: C0010、—: C0006)。(c) 長期孔内観測点における体積歪変化 (—: C0010、—: C0006)。(d) 低周波微動と通常地震の時空間分布。図 3a 中に実線で示した矩形領域内において発生したイベントについて示す。縦軸は、トラフ軸からの距離(km)を示す。12 月 21 日以降、サーバ入替のため微動と地震カタログの照合は未処理である(灰色部分は未収録)。

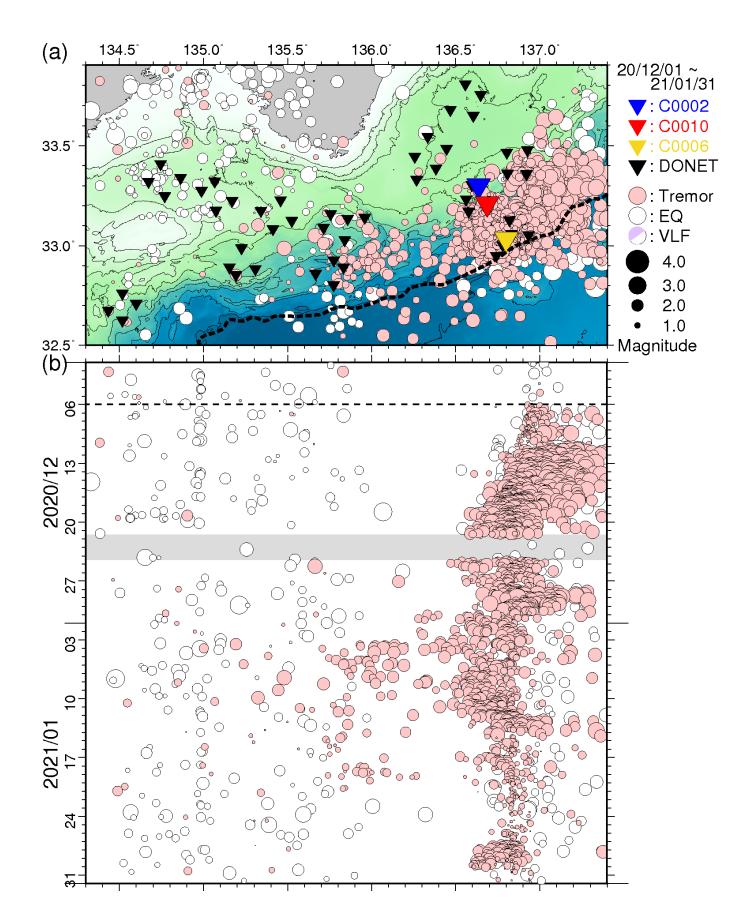


図 5 直近 2 ヵ月間において熊野灘から室戸沖にて発生した低周波微動の時空間分布 (2020 年 12 月 1 日~2021 年 1 月 31 日)。図 3 と同様のシンボルにて表示している。(a) 低周波微動の震央分布図。(b) a に示した震央を経度方向へ投影した低周波微動の時空間分布図。点線 (2020 年 12 月 6 日) は低周波微動が活発化した時刻。12 月 21 日以降、サーバ入替のため微動と地震カタログの照合は未処理である (灰色部分は未収録)。

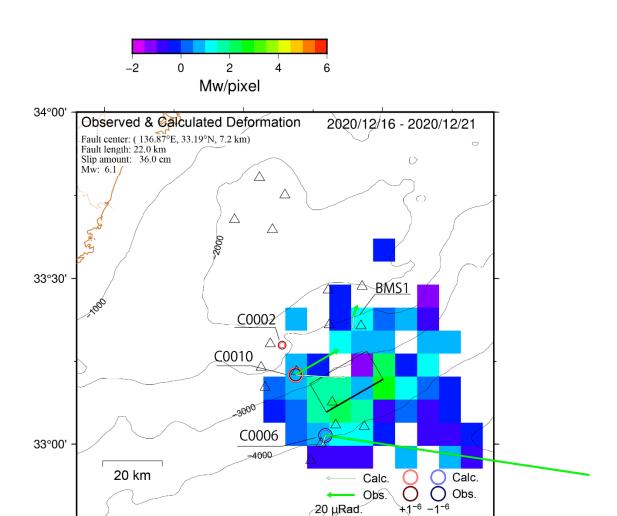


図9 2020/12/16-2020/12/21 の期間についてのC0002, C0010, C0006点の孔内間隙水圧、孔内傾斜、およびBMS1点の海底傾斜変動を説明しうる断層モデル(矩形:プレート境界面、Mw6.1)。〇は孔内間隙水圧による体積歪変化、矢印(緑)は傾斜変動をそれぞれモデル(Calc)と観測(Obs.)について示した。DONET観測点位置(\triangle)を参考のため示した。カラーピクセルは、対応期間中での低周波微動(LFT)による積算モーメントマグニチュード(Mw)の分布を示す。積算モーメント(Mo)は2-8Hzの地震動エネルギー(Es)からYabe et al., 2021に基づきMo = Es/10-8.5を仮定し、Mw=(log10(Mo)-9.1)/1.5 により計算した。

136°30'

136°00'

137°00'